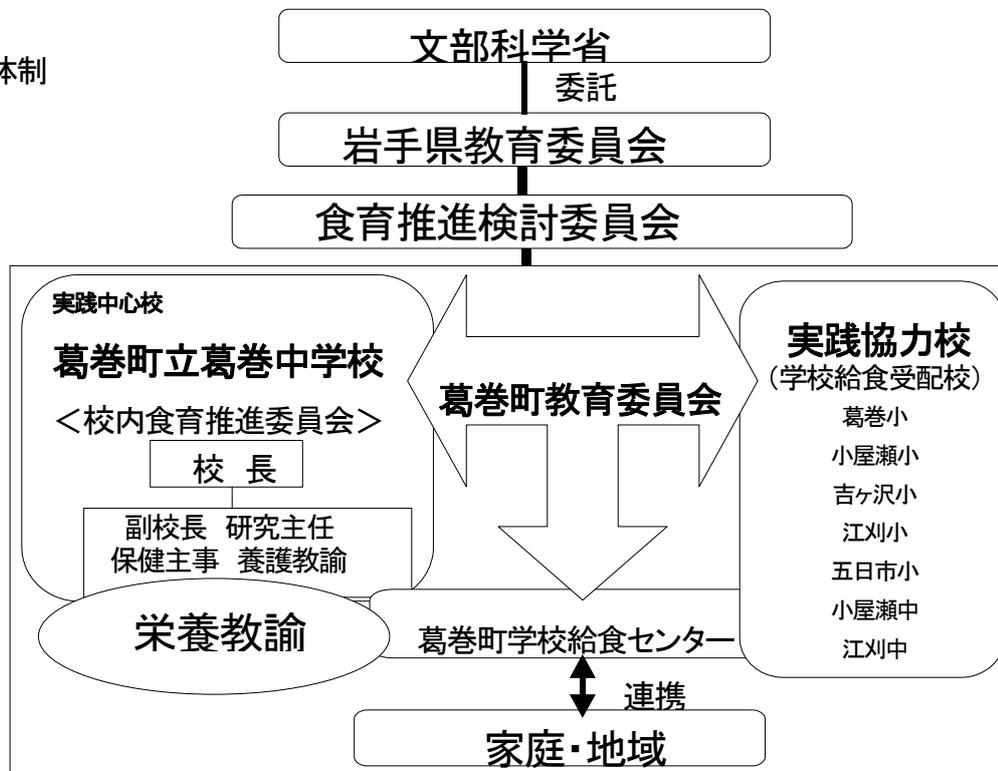


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	岩手県
推進地域名	葛巻町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 子どもの健康を保持増進させるための望ましい食習慣を形成するための方策

1 よくかんで食べることを意識づけさせる「カミカミ献立」の実施

(1) ねらい かみごたえのある給食内容を提供し、児童生徒によくかむことを意識させる。

(2) 期 日 毎月2回

(3) 方 法

- ・「カミカミ献立」当日、食育担当者により朝会時に教職員で確認。
- ・生徒の係（日直、保健委員等）を決め、「今日はカミカミ献立です。ひとつひとつ30回かんで食べましょう。」等呼びかける。
- ・昼の放送で、カミカミ献立についてとりあげて放送する。

(4) 担任による給食指導の充実

- ・給食当番に対して、配食の際、残さないよう指導する。
- ・食が細い、嫌いなものがある等、生徒の個に応じた量の調節をする。
- ・偏食傾向のある生徒に対して、全く手をつけないことのないよう、一口だけでも食べるよう指導する。残す場合でも、本人の努力を認めて片けさせる。
- ・担任は、かむことの効果について触れ「よくかんで食べる」よう指導する。



2 「もりもり給食」の実施

(1) ねらい 残さず食べようとする意欲を高める。

(2) 期 日 毎月19日「食育の日」

(3) 方 法

- ・食育担当者により、朝会時に教職員で確認。
- ・昼の放送で、資料により「もりもり給食」について放送する。
- ・担任による給食指導の充実
(配食の指導、個に応じた量の調節、偏食傾向のある生徒への指導等)
- ・給食センターで各学校に対して残食量を知らせる。



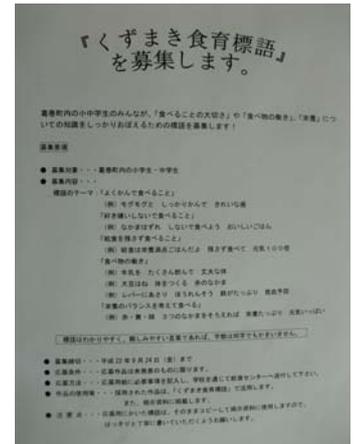
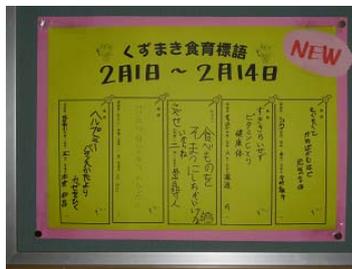
3 「くずまき食育標語」の実施

(1) ねらい 自分たちが考えた標語を毎日読みあげること、食についての意識を高め、知識の定着化を図る。

(2) 方 法 ①5つのテーマを設定し、町内の小学生・中学生を対象に食育標語を募集する。

②応募作品から毎月10作品を選び教室に掲示し、そのうちのひとつについては、毎日当番が給食前に読みあげる。

- (3) テーマ
- ①よくかんで食べること
 - ②好き嫌いしないで食べること
 - ③給食を残さず食べること
 - ④食べ物の働き
 - ⑤栄養のバランスを考えて食べる



4 学級活動における食に関する指導 (学級担任及び栄養教諭)

(1) ねらい 生徒が自らの生活を振り返り、実践する能力や自己管理能力を身に付けるようにさせる。

(2) 指導内容

学 年	指導日	題 材
1年	7月 5日 (月)	丈夫な歯や骨をつくろう
2年	7月 5日 (月)	スポーツと栄養について
3年1組	7月 8日 (木)	自分の食習慣を見直そう
3年2組	7月 8日 (木)	自分の食習慣を見直そう
1年	12月15日 (水)	給食の献立を考えよう
2年	12月15日 (水)	給食の献立を考えよう
3年1組	11月 5日 (金)	間食について考えよう
3年2組	11月 2日 (火)	間食について考えよう



(3) 授業研究会

- ・日 時 11月5日 (金) 5校時
 - ・ねらい 授業研究会を通し、食育指導のあり方について検討する。
 - ・指導の内容 3年1組 学級活動「間食について考えよう」
- <指導のねらい> 自分の間食の内容を見直し、望ましい間食のとり方を実践しようとする態度を育てる。



5 指導体制の充実

(1) 食育会議

- ・ねらい 全教職員で共通理解し、食育の推進を図る。
- ・時期 毎月の職員会議に合わせて開催
- ・内容 取組内容の確認と各学年の取組状況についての情報交換

(2) 「食育コーナー」の設置

- ・ねらい 校内に掲示場所を設けることにより、食への関心を高める。

(3) 委員会活動

- ・ねらい 生徒間で食育に関する関心を高める。
- ・内容 昼の放送時の「もりもり給食」の結果を知らせる活動を保健委員会が担当した。



6 家庭との連携

(1) 親子調理実習

- ・ねらい 子どもの苦手な野菜を多く取り入れた料理やおやつについて実習し、食事内容について保護者の意識をたかめる。

- ・期日 10月23日(土)

- ・実習内容 ビビンバ かぼちゃミルクの白玉だんご 牛乳ゼリー

- ・対象 保護者、生徒

(2) 食育関係通信の発行



テーマ2

共同調理場方式における効果的な食育の進め方

1 食育推進検討委員会の開催(年3回)

- (1) ねらい 共同調理場方式における効果的な食育の進め方を探り、事業の円滑な実施を図る。
- (2) 検討委員 19名<実践中心校>校長、副校長、養護教諭、栄養教諭、PTA会長 <実践協力校>校長 <生産者>納入組合理事長、産直店長 <葛巻町関係者>学校給食センター所長補佐兼管理係長、教育委員会指導主事、保健福祉課主任栄養士
- (3) 内容 ①第1回 6月 3日(木) 事業の円滑な実施を図るため、事業概要、計画、今後日程の確認
②第2回 9月 9日(木) 6月実施のアンケート結果について 課題の確認
食育推進における具体的方策の確認
③第3回 1月20日(木) 事業のまとめ 取組み結果について
12月実施のアンケート結果について 成果と課題について

2 食育担当者会議

- (1) ねらい 学校における食育について共通理解を図り、年間の指導計画について連絡調整する。
- (2) 期日 5月14日(金)
- (3) 出席者 各学校の食育担当者 栄養教諭 学校給食センター担当者
- (4) 内容 各学校の「食に関する指導」の計画について確認し、栄養教諭が指導を行う内容や日程について調整を行う。

テーマ1～2に共通する具体的計画

1 研修会の開催

- (1) ねらい 食育の必要性について再確認し、食育推進に対する意欲向上に資する。
- (2) 対象 実践中心校教職員
- (3) 内容
 - ①第1回 5月25日「学校における食育について」
講師 栄養教諭
 - ②第2回 9月24日「地場産品の活用と食育の推進」
講師 (株)JAシンセラ取締役常務 佐々木廣 氏



2 食育講演会の開催

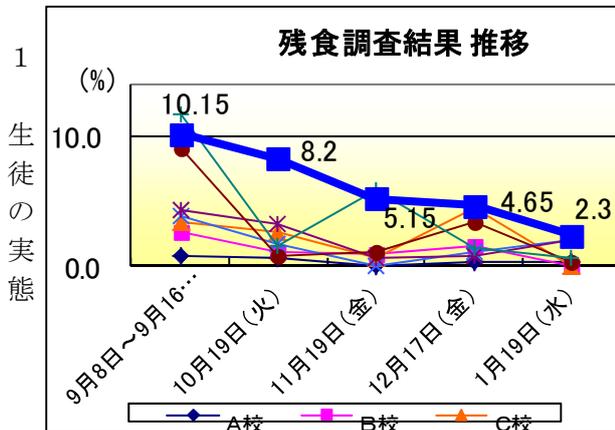
- (1) ねらい 中学生の身体の発育状況を知り、生活習慣や食育の必要性について確認する。
- (2) 対象 中学生 保護者
- (3) 演題 「中学生の健康とスポーツ～持てる力を発揮するために～」
- (4) 講師 青森県立保健大学 准教授 吉岡美子 氏

3 地元産食材の利用拡大検討委員会

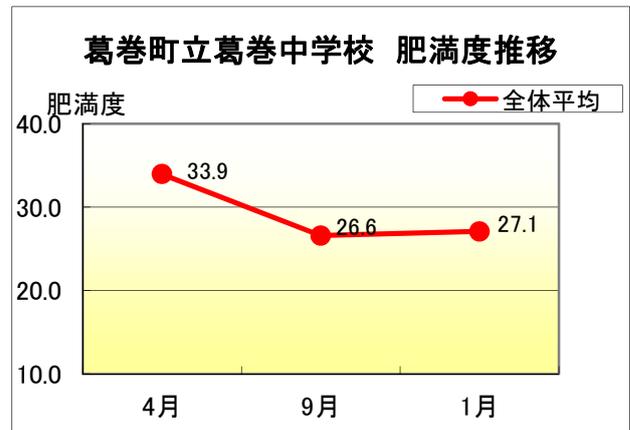
- (1) ねらい 学校給食の地元産食材利用拡大を図る。
- (2) 日時 1月28日(火) 15時～17時
- (3) 出席者 葛巻物資納入組合理事長 JA新いわて葛巻中央支所長 産直ほすなある店長
くずまき交流館プラトー支配人 葛巻学校給食センター 所長補佐、栄養教諭

数字で変化のあった事項について

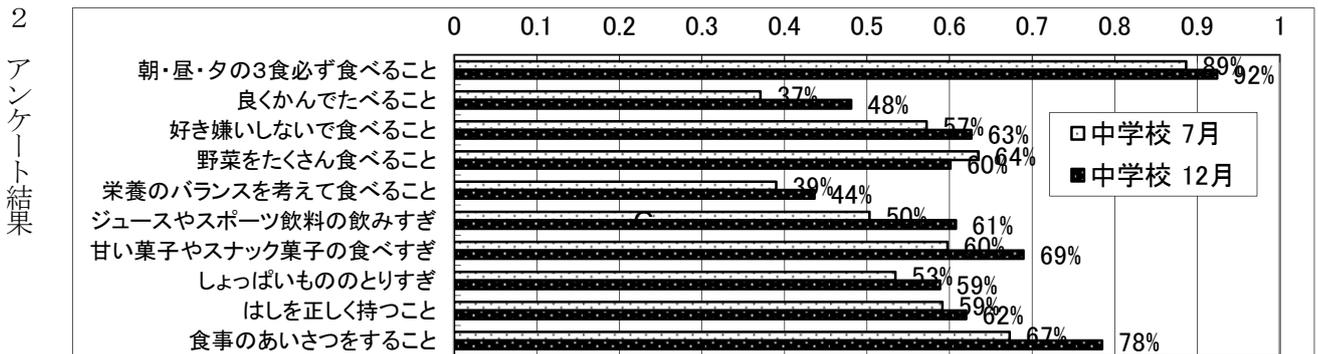
(1) 学校給食残食の変化



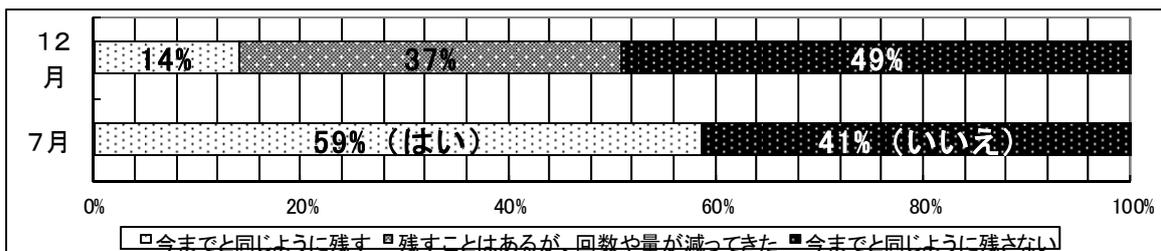
(2) 肥満度の推移



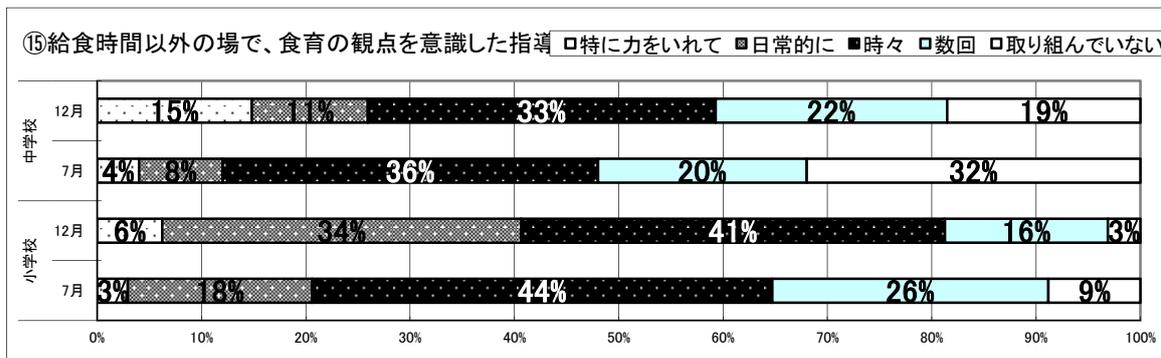
(1) 生徒 ①気を付けていること。



②給食を残すことがあるか。



(2) 教職員 ①普段取り組んでいる食育について



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

1 給食時間の栄養教諭による指導

短い時間でも栄養教諭が継続的に各教室に出向き、給食指導の様子を見たり、生徒に声をかけたりすることで、給食の残菜が少なくなることがわかった。また、残菜が少なくなることによって、学級担任は給食指導に対してさらに意欲的に取り組むようになる。そのことが、さらに生徒の給食を食べようとする意欲につながり、嫌いなものでも挑戦してみようという姿や残さずに食べたいと頑張る姿が見られた。

2 指導体制の充実

教職員が共通理解を図ることで、学校全体で食育に取り組むことができ、教職員が「食に関する指導」を行ううえでの自身につながったと考えられる。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 1 中学生の発達段階を考えると、生徒が自分の生活を振り返り、課題を把握し、自ら取り組むように学習を進めることができるとさらに意欲的な取組となり、成果にもつながるのではないかとと思われる。
- 2 共同調理場方式における効果的な食育の進め方を探る上で、連絡調整、指導を含めて教育委員会の果たす役割は非常に大きいと考えられる。しかし、共同調理場も教育委員会内の組織であり、食育の担当となると共同調理場の栄養教諭自身となり、組織的な広がりをつくることができなかった。所属校と受配校のどちらも同じように扱うことは困難であることから、栄養教諭はコーディネーターとなって各学校の食育担当者と連携し、その施設の食に関する指導の方策を探っていく必要がある。